

# 令和4年度第2回埼玉県西部地域医療構想調整会議 議事概要

- 1 日 時 令和4年11月9日（水） 19時00分～21時00分
- 2 場 所 Zoomによるオンライン開催
- 3 出席者 協議会委員 別紙出席者名簿のとおり23名中22名出席  
委員以外出席者 別紙出席者名簿のとおり  
事務局 別紙出席者名簿のとおり  
傍聴者 2名
- 4 議 事
  - (1) 病床機能転換促進事業補助金を活用した病床機能転換について  
資料1-1～1-3により狭山厚生病院が説明。  
(主な質疑等)
    - ・特になし
  - (2) 病院開設者の変更について  
資料2-1～2-2により一般社団法人巨樹の会が説明。  
(主な質疑等)
    - ・特になし
  - (3) 埼玉県地域保健医療計画に基づく病院整備計画について  
資料3、資料4-1～4-2により医療整備課が説明。  
(主な質疑等)
    - ・特になし資料5-1により（仮称）所沢美原総合病院が説明。  
(主な質疑等)
    - ・手術件数 2472件は年間実績なのか。以前もらった資料では、狭山中央病院が年間262件となっており、所沢明生病院のHPに出ている手術件数と合計しても合わないと思う。（木川委員）  
→外来手術も含めて年間2472件としている。
    - ・巨樹の会の役割をよく理解しており、地域で問題なくやっていけると思うので、特に質問はない。（石井委員）資料5-2により埼玉石心会病院が説明。  
(主な質疑等)
    - ・増床して患者を受け入れていただけるということはあるが、特に質問はない。（小室委員）
    - ・断らない救急医療を行っている点と、コロナ病床を活用して地域医療に

貢献している点より、特に問題はないと思う。（遠藤委員）

資料５－３により（仮称）敬寿会所沢病院が説明。

（主な質疑等）

- ・西部医療圏はすでに急性期が充実しているが、防衛医科大学校病院と、その近くに巨樹の会の（仮称）所沢美原総合病院が急性期の病院として開設するとのことだが、この地域にさらに敢えて急性期を存続させる意義はあるのか。（小村委員）

→現存する所沢明生病院の救急受入件数が月間３４０件以上あり、周辺に急性期の受け入れを行う病院がないため、移転後に地域住民のために急性期を担うという意味で意義があると思う。

→防衛医科大学校出身の先生が近くにいるため力添えをしてもらえらると思うが、開設するまでの期間が短いため、短期でスタッフを集めることができるのか。（小村委員）

→開設時に完全に集めることは難しい。徐々にスタッフを増やして、３年目には１５０人となるように集める予定だ。

→この地域で不足している小児救急を担っていただけるとありがたい。

（小村委員）

→対応できるように検討させていただく。

資料５－４により旭ヶ丘病院が説明。

（主な質疑等）

- ・旭ヶ丘病院のおかげで、急性期の患者をスムーズに転院させることができており、回復期リハビリテーションも行ってきている。回復期が増床してもらえることはありがたい。（佐伯委員）

資料５－５により明生リハビリテーション病院が説明。

（主な質疑等）

- ・所沢明生病院に病床を増やしたいから増床するのか。（木川委員）

→以前から増床の計画があり、今回増床を応募した。

- ・今までも連携を取って、回復期リハビリテーションを行ってもらったので、回復期が増えることは望ましいと思う。（塩谷委員）

- ・競合する病院もあるが、地域の中では高齢化が進んでいる地域もあるため、リハビリを行い、在宅につなげるという役割も重要である機能を分けて医療を行い、地域医療のために切磋琢磨していきたい。

（吉村委員）

資料５－６により新所沢清和病院が説明。

（主な質疑等）

- ・増床のコンセプトからすると慢性期の療養病床ではなく、地域包括ケア病棟の方がいいのではないか。（寶積委員）

→検討段階でそれも考えたが、居宅看護支援と訪問看護事業も行っているが、アウトリーチに結び付く部分でスタッフの経験が少なく、応募条件が厳しい。そのため、慢性期の療養病床で対応した方が地域医療に貢献できると考え、療養病床で応募した。

- ・高齢者が増えるので、療養＋認知症に対するニーズが高まると思う。  
(金子委員)

資料５－７により圏央所沢病院が説明。

(主な質疑等)

- ・これからは心臓リハビリテーションのニーズが高まると思うが、これから整備をしていくのか。(瓜生田委員)  
→今までの経験を生かして、新たに立ち上げたいと思う。

資料５－８により豊岡整形外科病院が説明。

(主な質疑等)

- ・高齢者の人口が増えており、骨折を含めた運動機能の障害を抱えた人が多いため、整形外科の病床を増やすことには意義があると思う。  
(小室委員)

(議事３全体に対する主な意見等)

- ・所沢市内の申請が多いのは、市内の医療の充実につながるため非常にありがたい。所沢明生病院の跡地にも病院を整備していただければ、地域に病院が無くならないのでありがたい。(瀬能委員)
- ・飯能市内の申請はなかったが、西部圏域の中で市民の皆様が適切な医療を受けられるよう整備していただけるとありがたい。(根岸委員)
- ・埼玉石心会病院で増床とのことで、狭山市内の増床は非常にありがたい。西部圏域の病床が確保されるのは大変ありがたい。(栗原委員)
- ・市内と近隣の医療整備が進んでいることを大変ありがたく思っている。ぜひ効率的・効果的な医療提供体制の整備をしていただきたい。  
(岸委員)
- ・旭ヶ丘病院には地域医療やコロナ対応でお世話になっている。今回の増床は、地域医療の向上につながると考えられ、大変期待している。  
(林委員)
- ・適正な医療を行うようご尽力いただきたい。(樋口委員)
- ・日高市では旭ヶ丘病院が増床するという事で、地域の医療が向上することによって大変期待している。(西委員)
- ・地域のニーズを考慮して、増床のご提案をいただき、大変ありがたい。ぜひ各医療機関の皆様には連携をお願いし、私達にも課題等ご教示いただけるとありがたい。(山川委員)

資料６により地域の医療ニーズの確認。

(主な質疑等)

- ・高度急性期、急性期はすでに足りており、多くなりすぎると潰しあってしまうと思う。(木川委員)
- ・高度急性期については困っているということはないと思う。高度急性期、急性期は連携が重要なので、今後は回復期が重要になってくると思う。  
(佐伯委員)

- ・ 後方との連携が重要だ。高度急性期、急性期の病床は足りているとは思いますが、実際に稼働しているかが重要だ。（石井委員）
- ・ 高度急性期、急性期が足りていて、回復期、慢性期が足りていないということになっている。高度急性期を行っている施設は限られていると思うが、急性期に関しては、急性期と申請していながら急性期の働きをしていない病院もあり、実態として本当の急性期なのかが把握できていないということが問題だと思う。ただ、西部圏域では埼玉石心会病院を中心に、救急を積極的に取ってくれる病院が多く、充実しているため、急性期を増やす必要があるかどうかについては疑問に思う。

（小村委員）

- ・ 高度急性期、急性期は少ないということはないが、まだまだあっても良いとも思う。防衛医大は国立の病院なので人員を増やしにくい。連携を取りやすい急性期病院が増えてもらった方がありがたい。行政から示されている数字より急性期が多くあってもいいと思う。（塩谷委員）
- ・ 防衛医大特有の制約（人員確保等）があるため、急性期が必ずしも足りているとは思っていない。（瓜生田委員）
- ・ 各病院の特色があるので、連携していくことが重要だ。（小室委員）
- ・ 新型コロナウイルス感染症流行下での救急搬送困難事例があるので、急性期が足りているとは思っていない。急性期、高度急性期で病床をこのまま確保して行ってほしい。また今後は、急性期から回復期、回復期から慢性期、慢性期から在宅医療というスムーズな移行が重要である。

（遠藤委員）

（「地域医療構想アドバイザー」川越市医師会会長 齊藤正身先生からご意見）

- ・ 地域完結型の医療を目指すことと、在宅医療につなげていくことの2点が重要なポイントだと思う。
- ・ 西部圏域は沢山の病院が応募しており、予定通り充足しているが、流入流出のことを考えると、隣接する圏域との調整が今後必要になってくると思う。
- ・ 必要病床数の中に、疾患別の必要病床数が出てこないが、それは今後細かく出していく必要があると思う。
- ・ コロナ禍の後で老人保健施設の空床が目立つということが問題となっており、今後、病院と老人保健施設との整合性も重要になってくる。地域包括ケア病床が充実すると、老人保健施設の空床が増えてくるということも起きてくる。
- ・ 今回、回復期の病床が増えるので、縦のネットワークだけではなく、同じ機能同士（回復期同士、急性期同士）の横のネットワークが重要になってくると思う。
- ・ 2040年以降は在宅医療が担わなければならないことが増えてくると思うので、そこも気にしていく必要がある。
- ・ 広域的に必要な病床数を出すと薄まってしまうので、今後圏域を分けたり、

隣接する圏域間で調整したりしていく必要がある。

- ・西部圏域は流出よりも流入の方が多く、流出も減ってきている。

(4) その他

(主な質疑等)

- ・特になし。

以上